天竜川における河川空間利用促進構想
－SDGs 等を見据えた利活用の可能性－

㈱オリエンタルコンサルタンツ　正会員　空かおり
㈱オリエンタルコンサルタンツ　正会員　○今野育実
㈱オリエンタルコンサルタンツ　正会員　川合伸治
㈱オリエンタルコンサルタンツ　正会員　酒井健吾

１．背景

国土交通省では、かつての賑わいを失った日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくため、水辺に対する社会の関心を高め、様々な立場からの参画を得るための取組を推進する「ミズベリング・プロジェクト」を行っている。

天竜川の河川空間は、広い河川敷と整備された河川公園を利用して、地域の凧揚げイベントやスポーツ、散策などが盛んで、花火大会等のイベントにも利用されている。流域住民からの「河川空間を利用して、地域活性化につなげたい」との声を受け、平成 28 年に「ミズベリング天竜川」を立ち上げた。さらに平成 29 年度から都市・地域再生等利用区域の指定を目指し社会実験を実施してきた。

図 1　天竜川河口

２．昨今の社会情勢とその対策

（１）SDGs

１）SDGs の流れ

SDGs とは、平成 27 年の国連サミットで採択された、2030 年を期限として「持続可能でよりよい世界」を目指す国際目標であり、「気候変動」や「持続可能な都市」、「インフラ、専業化、イノベーション」等の 17 の目標からなる。（図２）

SDGs の採択を受け、日本では平成 28 年に SDGs 推進本部を設置したほか、令和元年 12 月に SDGs 実施指針を改定し、17 の国際目標を日本の現状に即し再構築した 8 つの優先課題を提示した。（図３）

8 つの優先課題では、「あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現」、「成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション」、「生物多様性、森林、海洋等の環境の保全」等があげられている。

２）河川空間の有効性

川辺に広がる河川敷や川沿いではスポーツを行うことができ、川に入れば自然環境に触れることができる。また、堤防沿いはピクニックなどに利用され、住民の憩いの場所となっている。さらに国土交通省の実施する「ミズベリング・プロジェクト」では、水辺から賑わいを創出するため、音楽祭やアート、ヨガなどのスポーツ、アウトドア、教育、ドローン等の産業など様々な場面で利用されている。このように河川空間は、芸術、スポーツ、教育、産業など様々な分野での利用が可能であり、地域の活性化、SDGs の目標達成に繋がる可能性を含んでいる。

図 2　SDGs17 の目標（出典：持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組、外務省）

図 3　8 つの優先課題（出典：持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組、外務省）

（２）東京一極集中解消に向けた取組

日本では、東京に人口の約 3 割が集中し、地方の過疎化・衰退が進行している。これはアメリカや東アジア諸国と比較しても高い値である。このような情勢を

キーワード　河川空間利用、ミズベリング、社会実験、地域活性化
連絡先　〒151-0071　東京都渋谷区本町 3-12-1 住友不動産西新宿ビル 6 号館　河川港湾部 TEL 03(6311)7863

© Japan Society of Civil Engineers

踏まえ、国土交通省では、東京一極集中を是正し、地方を活性化するための対策として「地方拠点強化税制」や「地方創生推進交付金」等を創設し、テレワーク・ワーケーション等による多様な働き方、地方移住を推進している。自治体でも移住の促進、ワーケーション拠点の整備などを進めているほか、東京からの移住者に対する助成金を設立している。

特に新型コロナウイルスの感染を受け、テレワーク・ワーケーションが促進され、本部を東京から地方に移す企業や支社所属という概念をなくす企業など多様な働き方が促進されている。

３．天竜川における浜松市の取組

（１）「ビーチ・マリンスポーツ HAMAMATHU」

浜松市では、ビーチ・マリンスポーツ事業化計画に基づき、浜松を「ビーチ・マリンスポーツの聖地」として PR している。ブランドの確立と認知度向上に向け、平成 30 年 3 月には「ビーチ・マリンスポーツ推進協議会」の設立や浜松や浜名湖で開催されるイベント情報等を発信する特設サイトを開設した。令和 2 年度も市の主要事業として事業が進められている。

（２）移住者促進

浜松市では、浜松市への移住・定住の促進や中小企業等における人手不足解消を目的に、移住者向けの補助金制度「浜松市はじめようハマライフ助成事業補助金」を設立している。また、浜松市の魅力（環境、教育など）や移住者の声を発信する移住促進ホームページ「はじめよう、ハマライフ」も開設し、移住者促進を行っている。新型コロナウイルスの感染拡大を受け多拠点居住やワーケーション拠点施設の整備を行うなど社会情勢に合わせた移住の促進事業を展開している。

４．天竜川河川空間利活用の可能性

昨今の社会情勢、天竜川や浜松市での取組を踏まえ、河川空間の利活用の可能性について整理した。

（１）地元産業活性化への寄与

ドローンは、物資輸送、インフラ点検、災害現場の状況把握など様々な活用が期待されており、今後市場拡大が期待されているが、飛行場所の確保が困難であり、事業者の研究・実験の支援が必要となっている。このような中、天竜川に広がる広大な河川敷を利用し、平成 29 年から実施している社会実験にて、民間事業者によるドローンの飛行実験が行われている。

今後、使用可能区域や使用時のルール等を明確化し、安全にドローンを使用できる環境を整えることでさらなる利活用・産業の活性化が期待できる。

図 4　地元企業によるドローンの飛行実験

（２）移住者促進への寄与

天竜川の河川敷では、BBQ 等のアウトドアやシクロクロス等のスポーツイベントが実施されている。また、河口に広がるビーチでは、サップ・カヌーなどのマリンスポーツが実施されており、様々なイベントが実施できる。このようなイベントを活発に行うことで地域の魅力が高まり、移住者の促進へと繋がっていくと考えられる。今後、浜松市の施策や地元の商店・アウトドア系の企業などとの連携強化を行い、より地域活性化や移住者促進への寄与が期待できる。

図 5　シクロクロス大会の様子

（３）地域を担う次世代教育の場・地域愛着醸成の場としての活用

天竜川河輪地区には、水辺の楽校が設置されており、子ども達を対象に天竜川の水質調査やドローンでの天竜川観察などを実施している。このように河川空間では、生物多様性や自然環境に関心のある次世代の教育が可能であり、持続可能な社会の実現・維持に寄与すると考えられる。また、地域活動に参加することで、地域への愛着の醸成し、地域活性にも寄与する。

５．さいごに

天竜川は、広大な河川敷が広がっているほか、愛知県や岐阜県等の周辺自治体からの利便性もよく、水辺の楽校が整備されるなどさまざまな利活用の可能性を持つ河川である。浜松市の施策との連携等を行い、河川の利活用が活発になることで、さらに河川空間の可能性が広がり、「まち」の PR、企業の誘致、観光客や移住者の増加などに繋がり、地域活性を促進することができる。

６．謝辞

天竜川ミズベリング・プロジェクトを推進している国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所及び浜松市の関係者の皆様、天竜川社会実験に参画していただいている民間企業・団体、活動趣旨に賛同し協力いただいている地域自治会等の皆様に対し、この場をお借りしてお礼申し上げる。

© Japan Society of Civil Engineers